国際ワークショップ　2021

東アジア地域における家庭教育と規範的文化の伝達の諸相
―各地域のケーススタディをふまえて―

要旨集

International Workshop in 2021 at Waseda University

Family Education and Transmission of Normative Culture in East Asia: Based on Some Case Studies

国际论坛・早稻田大学・2021

东亚地区家庭教育与规范文化传播的诸相：基于不同地区的个案研究

プログラム
Program
大会日程

報告１　　新保敦子（早稲田大学教授）

Presentation1　Atsuko Shimbo　(Professor, Waseda University)

「東アジア地域における規範的文化の伝達：世代間比較をふまえて」

The Inheritance of Normative Culture in Families in East Asia: Based on Comparative Research of Generations

东亚地区规范文化的传播：通过代际间比较

報告２　　天童睦子（宮城学院女子大学教授）

Presentation2　Mutsuko Tendo　(Professor, Miyagi Gakuin Women's University)

「日本の家庭教育としつけ戦略の現在：東京・宮城のフィールド調査を中心に」

Family Education and Shitsuke Strategies in Japan: Focusing on Field Work Findings in Tokyo and Miyagi

日本的家庭教育和管教策略的现状：以东京和宫城的实地调研

報告３　　朱奕雷・李俐穎（早稲田大学大学院生）

Presentation3　Zhu Yilei & Li Liying　(Graduate Student, Waseda University)

「現代中国における家庭教育の世代間変容に関する考察」

Family Education in China: A Consideration of Generation Changes

当代中国家庭教育的代际变迁研究

ゲスト報告　　李恩珠　先生（韓国、明知短期大学客員教授）

Special presentation Guest speaker　(LEE Eunju ,Visiting Professor, Myeongji University)

「韓国における家庭教育と文化の伝達－祖母・母・娘世代の比較研究」

Family Education and Cultural Transmission in Korea: Three Generations Comparative Research

韩国的家庭教育与文化传播：外婆、母亲、女儿三代间的比较研究

報告１　　新保敦子（早稲田大学教授）

Presentation1　Atsuko Shimbo（Professor, Waseda University）

「東アジア地域における規範的文化の伝達：世代間比較をふまえて」

The Inheritance of Normative Culture in Families in East Asia: Based on Comparative Research of Generations

东亚地区规范文化的传播：通过代际间比较

東アジア地域における規範的文化の伝達
—世代間比較を踏まえて—

新保敦子（早稲田大学）

国際WS@早稲田大学
2021年12月13日

1

1. 課題設定

- 祖父母世代、親世代、子世代
  3世代における規範的文化の継承
- 1930年代～40年代生まれの女性（祖母世代）の受けた家庭教育

2

2. 先行研究

- 家族の戦後体制（出産平等主義、専業主婦の大衆化、愛情による家族の結合）の担い手としての人口移行期（落合、2021）
  ➡ 人口移行期が受けた家庭教育に焦点化
- しつけとしての家庭教育、子どもの社会化、戦略としての家庭教育、社会的地位達成（天童、2016）
  ➡ しつけとしての家庭教育

3

3. 調査概要

4

(1) 1930年代～40年代調査

ケース
- 34サンプル
- 1930年代から1940年代生まれ
- 都市中間層が多い

インタビュー
- 8人
- 1934年生まれ～1944年生まれ
- 父親がサラリーマンが多い

5

(2) 2010年代生まれ調査

- 調査地域：A区
- 調査対象：小学校１，2年生の親調査
- 調査時期：2020年2月
- 有効サンプル数：194

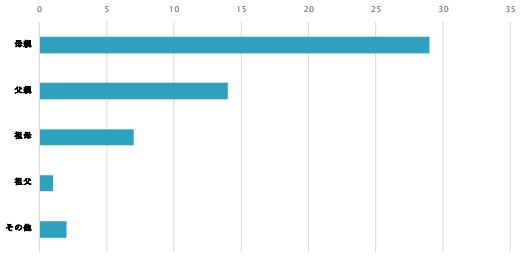
6

4. 調査結果

7

（1） 概要:しつけの担当者

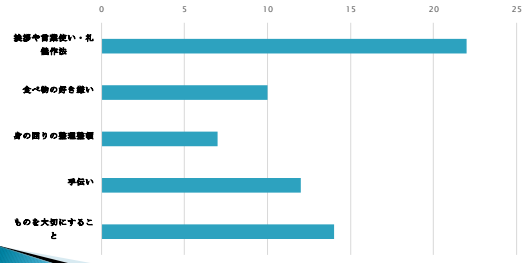
図１ 主なしつけの担当者



8

（2） しつけの中で大切にされていたこと（幼い頃）

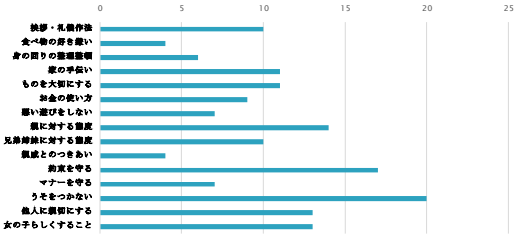
図２ 日常のしつけの中で大切にされていたこと
＜幼い頃＞



9

(2) しつけの中で大切にされていたこと（小学校の頃）

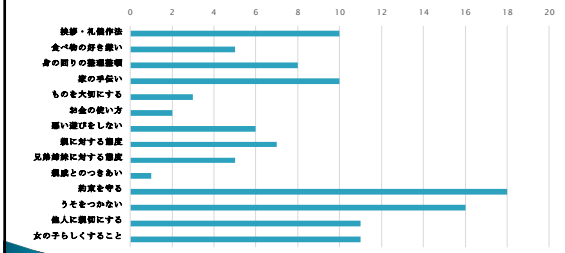
図3 日常のしつけの中で大切にされていたこと
＜小学校の頃＞



10

(2) しつけの中で大切にされていたこと（中学・高校の頃）

図4 日常のしつけの中で大切にされていたこと
＜中学・高校の頃＞



11

① 挨拶、礼儀作法

- 「昔の家庭はこんなものかと思うが、自分の家は厳格で嫌いだった。父親はとにかく厳しく、子どもに対してうるさい父であった。明治の人間で、朝、起きたら神棚に向かって手を打って挨拶。それから、食事。その時に、正座をして、お膳の前を30センチあけろ、肘があがっていてだめだとか、おしゃべりをするなとか、本当にうるさい父だった。ただ、そのため、その後、どんな場所に行っても大丈夫であった」

12

② ものを大切に：食べ物を粗末にしない

- 「一般の私たちは、餓死寸前。食べ物について、一生忘れられない。今でも捨てられない。食料事情が悪いので、子どもといえども好き嫌いがあっても黙っている」

13

③ 約束を守る、嘘をつかない

- 「小さい時から、約束を守るように、言われてきた」。
- 「嘘をついたり、ごまかしたりすると、厳しく叱られた」。

14

④ 対人関係：人に迷惑をかけない、人に親切に

- 人に迷惑をかけてはいけない。人に手をかけるのは絶対にいけない。
- 戦前から戦後にかけての貧しい時代の中で、「助け合わないと生きていけなかった」
- 「畑で何かとれた時には、隣近所の玄関先に置いておく。助けあうのが普通であり、人に親切にというのは、ごく当たり前のことであったので、特に親から言われた記憶は無い」

15

⑤ 手伝い

- 家族のための食事の準備：「おばあさんと、かぼちゃを（塩が無いので）海水で煮ることが自分の仕事であった」
- 家が果樹栽培の農家であった。そのため出荷用の箱を作る作業をやっていた。ただ、これは、「手伝い」という範疇にくくられるものではなく、むしろ勤労であり、農作業であったとする。
- 働かないと食べていけない

16

⑥ ジェンダー規範：

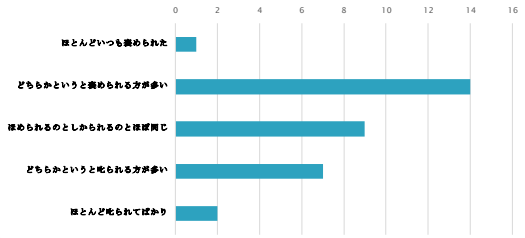
女の子らしく（立ち居振る舞い、親に従順である）

- スカートのたけが短いといって祖母（明治生まれ）から注意される
- 親に従順でないと「女のくせになまいき」と叱られることもあった。

17

（3） 褒められたか叱られたか

図5　ほめられた場合とか叱られた場合とではどちらが多かったか



18

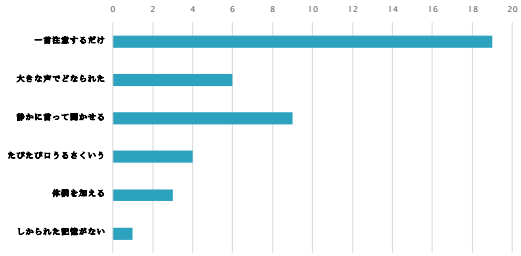
①　叱れたこと

- まず第１に、兄弟姉妹げんか多い。兄弟・姉妹順位によって、長女であったため「上ばかりがいつも悪いことにされて怒られていた」といった声もある。
- 叱られたこととして、第２には、「女の子らしく」は、多くの人が言われていた。特に、祖父母がしつけに関与する場合、服装であるとか（肌の露出をしないように）、派手な服装を着ないようにといったしつけがなされた（Iさん）。

19

②　叱られた時の方法

図6　叱られた時の方法



20

③　褒められたこと

- 手伝い

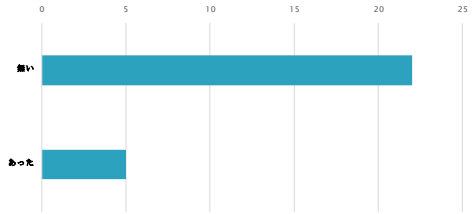
「手伝いは当然のことなので、褒められたことはなかった。」という意見もある。

21

(4)　しつけに関して意見の違い

①　しつけに関して家族の間の意見の違い

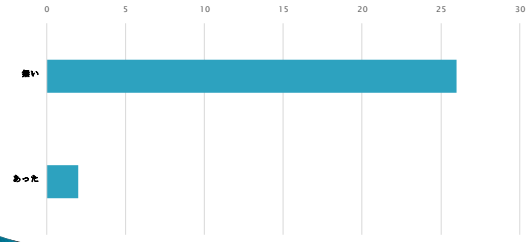
図7　しつけに関して家族の間での意見の違い



22

②しつけに関して教師と親との意見の違い

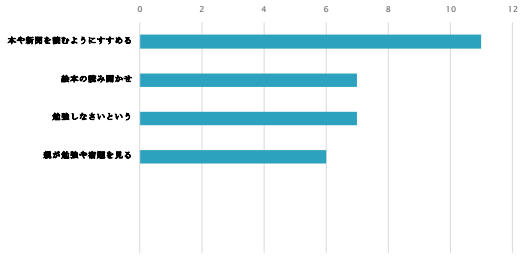
図8 しつけに関して
教師と親との意見の違い



23

(5)　家庭でよくしていたこと(学業)

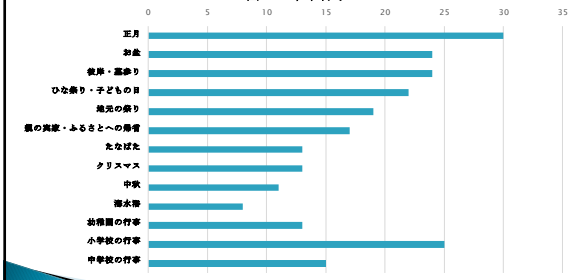
図9　家庭における教育（学業）



24

(5) 家庭でよくしていたこと(年中行事)

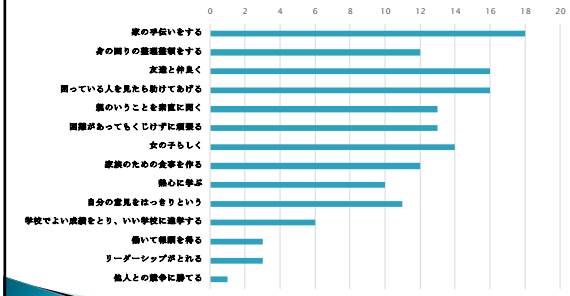
図10　年中行事



25

(6) 15歳頃の親の期待

図11　15歳頃の親の期待



26

(6) 15歳時の娘への期待

- 身の回りの整理整頓をして、家の手伝いをして、周囲と仲良くし、女の子らしく振る舞い、親の言うことを素直に聞くこと。
- 学校で良い成績をとって進学すること、他人との競争に勝つことは、望まれていない。
- 将来は良妻賢母として夫に尽くし、幸せな家庭を築くことが期待されている。

27

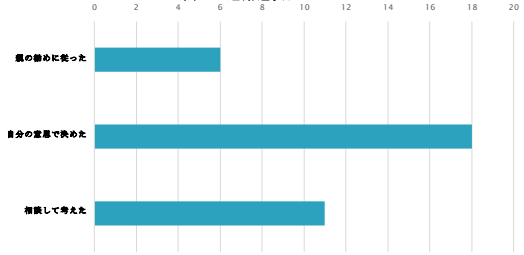
☆1930年代生まれと1940年代生まれの比較

- 「家の手伝い」（11人：7人）
- 「身の回りの整理整頓」（9人：3人）
- 「親の言うことを素直に聞く」（10人：4人）
- 「熱心に学ぶ」（5人：5人）
- 「自分の意見をはっきりという」（4人：7人）
- 「女の子らしく」（10人：４人）
- 「家族のために食事を作る」（10人：2人）

28

(7) 進路選択

図12　進路選択について



29

5.考察

30

（1） 規範的文化の継承

① 「礼儀を守る」「嘘をつかない」「約束を守る」「ものを大切に」の重視

- A区調査（2020）：自分の子どもに対する教育に関して重視すること
  - 「あいさつをする」（99.0%）
  - 「マナーを守る」（99.0%）
  - 「約束を守る」（97.4%）
  - 「嘘をつかない」（93.8%）
  - 「ものを大切にする」（93.8%）

31

1930年代～40年代生まれ（祖父母世代）
1970年代～80年代生まれ（親世代）
2010年代生まれ（子世代）

↓

3世代にわたって、「礼儀を守る」「嘘をつかない」「約束を守る」「ものを大切に」といった規範的文化が世代間で継承されている。

32

☆ 江戸時代の道徳：嘘をつかない

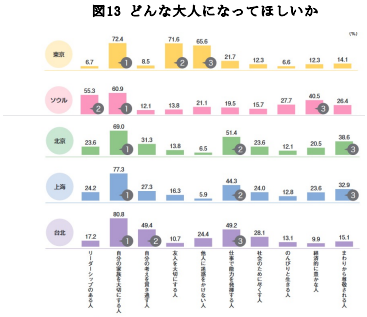
- 「幼（いとけな）き時より、心ことばに忠信（まこと）を主として、偽（いつわ）りなからしむべし。もし人をあざむき、偽りをいはば、きびしくいましむべし。・・・いつはりを云（いう）は、人にあらず、と思ふべし」（貝原益軒『和俗童子訓』）
- 「偽（うそ）を言うたり為（し）たりはなされるものにて候。これ人間第一のたしなみなり」（手島堵庵、口教２『前訓』）

33

②「他人に親切に」、「迷惑をかけない」

- 2010年のベネッセによる東京、上海、北京、ソウル、台北における幼児の親に対する生活調査
- 「どんな大人になってほしいか」項目の国際比較

図13 どんな大人になってほしいか



34

③ 「手伝い」、「年中行事」にみる変化

- A区調査（2020）と比較すると、親が「手伝い」を重んじる割合は、他の「約束を守る」「嘘をつかない」よりも低い（手伝い63.0%に対して、約束を守る97.4%、嘘をつかない93.8%）。
- A区調査（2020）では、子ども、親などの「誕生日」が重要な家族行事として位置づけられている（子どもの誕生日の実施率100%、親・祖父母の誕生日の実施率74.9%）

35

（2） 兄弟姉妹関係

① 兄弟姉妹間の矛盾

- 1930年代～40年代生まれ
  「叱られたのは兄弟姉妹喧嘩」
  「兄弟姉妹仲良くしなさい」

- A区調査（2020）
  「兄弟と仲良くする」（83.0%）
  「約束を守る」（97.8%）

36

② 兄弟姉妹の協力関係

- 「兄弟姉妹の数が多く、親は食べて寝させるだけで精一杯」（自由記述）
  ➡ 上の子が下の子の世話をする、共同で農作業をする。
- 兄弟姉妹間の利害対立や葛藤、協力関係
  ➡忍耐力や自己制御、挑戦する気持ち、さらに兄弟姉妹と協力して目標に取り組むといった、いわゆる「社会情動的スキル」の獲得に結実

37

③ ロールモデルとしての兄姉

- 上級学校へ進学している兄・姉がいる場合、彼らがロールモデルの役割。上級学校進学へのアスピレーションが高い。
- 兄・姉が学校を卒業後に都会に出ていくことも、進路選択においては刺激。
- 学費の負担、住居費の負担

38

（3）「女の子らしく」と反発

① 女の子らしく

- 良妻賢母
- 不十分な学業→子どもへの期待（教育戦略の担い手）
- 戦後の社会教育の担い手（専業主婦）

② 親への反発と自力での将来の道の選択

- 母親への反発、教員の支援、上級学校への進学

39

➢ まとめ1

- 1930年年代～40年代生まれ。規範的文化の中で、「約束を守る」「うそをつかない」「他人に迷惑をかけない」「他の人に親切に」の重視。規範的文化の継承。
- 江戸時代
  →1930年代～40年代生まれ
  →1970年年代～80年代生まれ
  →2010年代生まれ

40

➢ まとめ2

- 兄弟姉妹の数の多さからくる葛藤。
- 戦争に伴う家族構造の不安定、経済的基盤の困難に対して、兄弟姉妹が協力しあい相互に補う。
- 葛藤や対立を克服し、協力し合いながら困難に立ち向かうことで、自然に忍耐力、自己制御、挑戦する気持ちといった社会情動的スキルを獲得。

41

➢ まとめ3

- 兄・姉はロールモデルとしても大きな役割。
- 伝統的な家族に対して、学校教育という新しい価値観を持ち込んだのは上の兄姉であり、妹の上級学校への進学も応援。

42

まとめ4

- 15歳時の親の娘に対する期待、良妻賢母。移行期世代の女性たちは、自分の果たせぬ夢を次世代に託す。「教育する家族」の主要なアクターとしての役割を担う。
- 母親への反発から、自分で進路を決定し、教師の支援を受けながら大学に進学し、職業を持つ者も少なくなかった。

43

参考文献

- 落合恵美子『21世紀家族へ―家族の戦後体制の見かた・超えかた』（第4版）、有斐閣、2021年、82-83頁。
- 広田照幸『日本の家庭教育は衰退したか』、講談社、1999年。
- 有地亨『日本人のしつけ―家庭教育と学校教育の変遷と交錯』、法律文化社、2000年。
- 天童睦子・多賀太「「家族と教育」の研究動向と課題―家庭教育・戦略・ペアレントクラシー」『家族社会学研究』、第28巻第2号、2016年10月、224-233頁。
- 新保敦子「近代日本の家族におけるしつけの変遷―1930年代から40年代生まれの女性の検証から」『学術研究』、2021年。

44

報告 2　　天童睦子（宮城学院女子大学教授）

Presentation2　Mutsuko Tendo, Professor　(Miyagi Gakuin Women's University)

「日本の家庭教育としつけ戦略の現在：東京・宮城のフィールド調査を中心に」

Family Education and Shitsuke Strategies in Japan: Focusing on Field Work Findings in Tokyo and Miyagi

日本的家庭教育和管教策略的现状：以东京和宫城的实地调研

日本の家庭教育としつけ戦略の現在

東京・宮城のフィールド調査を中心に

少子化・ジェンダー・ペアレントクラシー

天童睦子(宮城学院女子大学)

国際ワークショップ報告

Family Education and Shitsuke Strategies in Contemporary Japan

Mutsuko TENDO, Ph.D. , Professor, Miyagi Gakuin Women's University

International Workshop in Waseda University by Online, 2021・12・13

1

1．はじめに：本報告の目的

東アジアにおける家庭教育と文化伝達に関する比較研究
（全体の枠組み：新保先生報告を受けて）

- 日本の家族と子育て―育児戦略の変容と社会的背景

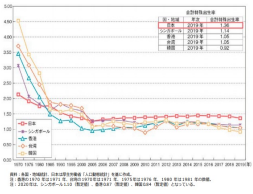
鍵概念：少子化・ジェンダー秩序・ペアレントクラシー

1．出生率の低下傾向　東アジアに共通の現象
2．ジェンダー秩序：性別役割分業の再編
3．親の育児責任の強化，ペアレントクラシー時代の新たな潮流

2

背景１：出生率の国際比較 Declining birth rates in East Asia

出典　少子化社会対策白書 2021



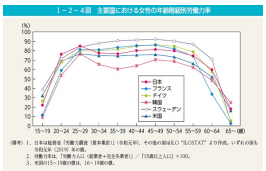
- 日本　1970年代　出生率の低下傾向　1990年代　少子化の社会問題化
- 台湾、韓国、東南アジア諸国（シンガポール）80年代の圧縮された近代―90年代後半急速な低出生率

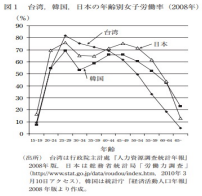
☆少ない子どもへの最大限の投資＝少子化時代の育児戦略（天童 2004）は東アジアに共通する現象に

3

背景２：女性の労働力率　国際比較　Women's labor participation rate by age group, international comparison Japan, Korea, and Sweden

左 男女共同参画白書 2021　　右 出典: 瀬地山 角 2012





4

3．家庭責任の強調と性別役割分業体制の再編―日本の特徴

- ジェンダー秩序の継続と変容…M字型労働曲線の谷は浅くなった
- ただし、女性の不安定雇用比率の高さ
- 日本の女性　非正規雇用者比率（女性54.4%、男性22.2%　2020）
- 女性の二重負担？　家事・育児も仕事も⇔パーフェクトな女性像？仕事も家庭も子育ても（資源の偏在　女性の二極化？）
- 一方男性の育児参加は政策言説レベルで90年代に高まりをみせた…父親の育児の正当化
- 2007年登場のビジネスマン向け育児メディア　「お父さん　出番です！」　男性側の**二重基準**？　仕事（稼ぎ手）だけでない家庭も大事にする父親像（男性のジレンマ）

5

☆ペアレントクラシー時代の育児戦略 社会的成功モードから個人化・幸福志向へ？

- 家庭教育への注目　資源投入が可能な家族か否か：親の資本と親の選好がチャンスの教育達成を左右する時代　ペアレントクラシー時代の子育て　親の社会的・文化的階層と親の意識・指向に大きく影響

☆本報告のポイント

メリトクラシー　「教育する家族」　20世紀後半モデル
⇒　ペアレントクラシー　親の資本と選好（経済資源と文化資源）― 子どもの教育格差　⇒　さらに、家庭教育の新たな潮流

- しつけとしての家庭教育／教育戦略的家庭教育　＋もう一つの価値志向
  Socialization　から　Pedagogic strategies
- 社会的成功・競争社会の勝ち残り志向型　→　幸福志向・家族志向型
  (success mode)　(wellness mode)

6

４.家庭教育としつけ戦略の現在:実証的研究をふまえて

- 東京のA区S小学校（6歳～８歳児をもつ親への質問紙調査）
- 都市型家族のしつけ意識と家庭教育
- **実際、子どもをもつ親の家庭教育としつけ意識はどのようなものか**
- 都市型家族のしつけ意識と家庭教育の現在：東京小学生を持つ親194ケースの実証的研究 2020年　コロナ禍での調査　子育て期の親自身の生き方、働き方が問い直される時期
-

7

「子育て期の親のしつけ意識と家庭教育調査 - 東京都A区S小　保護者調査」

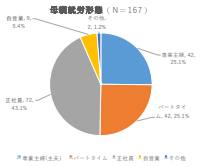
- 標本数　（1年生120 2年生113の親）233名
- 調査方法：質問紙調査　S小の協力を得て1年、2年の児童の親に調査票を配布し、郵送により回収
- 回答数／回収率　194票（うち有効回答数194）／83%

回答者194名（母親180 父親14）の属性

年齢階層は35－39歳（28.8%）、40－44歳（44.5%）で7割を占める

平均子ども数は2.5人（東京の合計特殊出生率1.15？ 2019）

母親の就労形態では正社員4割以上、パートタイム25%、自営業を合わせると7割以上が就労、専業主婦は４人に1人



8

4－1 しつけの担い手，親子関係

- **「しつけに積極的にかかわっている人はだれか」**（複数回答）の回答結果を見ます。しつけの担い手は母親が多数を占めるが（97.8%）、父親もかかわっている（65.5%）。都市部の核家族が大半を占める家族形態では、祖父母との同居は少ない。しつけの担い手に祖父母を挙げる件数は、母方と父方をあわせても13例と少な目である。
- **「親として、お子さんに対してしていること」**
- しつけの型

「子どもの言い分に耳を傾け、子どもに寄り添う」（子どもに寄り添うしつけ）は、9割以上の親が「よくしている」、「どちらかといえばしている」と回答

「子どもが悪いことをしたら叱り、親としてはっきり言う」では、「よくしている」が7割を超え、「どちらかといえばしている」を合わせると99%

9

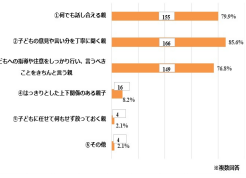
4－2　望ましい親子関係

- **「望ましい親子関係のあり方」**

「子どもの意見や言い分を丁寧に聞く」親がよいとする回答が85%と高い。

「はっきりした上下関係がある親子」がよいは8%と少数派。

「なんでも話し合える親子関係」（79.9%）「いうべきことはきちんという親」（76.8%）が高い。命令的・上下関係的な親子関係には否定的



10

☆しつけの型：洗練された推敲コード

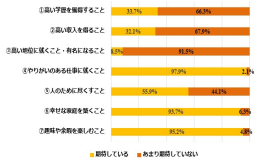
☆子どものしつけや親子関係において、都市型家族（東京A区）の事例は、水平的な親子関係を好とし、垂直的・上下関係的な親子関係には否定的である。　水平的親子関係

- これはBernsteinのことばを借りれば、Restricted Code（限定コード）ではなく x　Elaborated Code推敲・精密コード〇をよしとするしつけ戦略の一形態となる。
- ただし、そこには推敲コードの洗練化があり、具体的には、子どもに寄り添い、耳を傾け（子どもの主体化を促すアピール型しつけ）、同時に親としていうべきことをはっきりいう（controlは作動）という見えない統制様式（見えないしつけ戦略）があるといえよう。

11

５子どもへの期待：再生産戦略の個人化と幸福志向

- 子どもの将来で「期待していること」で高いのは、「やりがいのある仕事に就くこと」、「趣味や余暇を楽しむ」、「幸せな家庭を築くこと」で、いずれも9割以上である。高い学歴、収入、高い地位に期待する割合は少ない。
- 子ども個人の生活の充実（やりがい、趣味・余暇、幸福な家庭）
- メリトクラシー的価値志向から、子ども（我が子）の個人的幸福を企図する将来戦略＝再生産戦略の個人化が加速。



12

再生産戦略の個人化と第二の人口転換

- 「再生産戦略の個人化」は、人口学的文脈でもう一つの見方がある。第二の人口転換を論じたヴァン・デ・カーらは、1960年代以降の西欧諸国において、出生率低下の要因に「子ども中心主義の終焉と個人の自己実現の最大化」という価値観の変化があることを指摘した（van de Kaa 1987）。これは、少数の子どもに投資をして子どもの立身出世を望む子ども中心主義社会が終わりを告げ、替わりに個人やカップルが自分たちの人生と個々の自己実現を最優先する「個人化志向」の強まりが、低出生率の背景要因であるとする説である（天童 2004:p.145）。

13

再生産戦略の個人化

- 今回の東京調査の自由記述で、子どもの誕生日（3回祝う）、親の結婚記念日、家族でクリスマスやハロウィンといった、家庭行事のイベント重視が見て取れる。替わって「家」にかかわる年中行事（墓参り、お盆）が減少していること、また後者は宮城（農業地域 登米調査）の事例より比率が低いことを合わせると、都市部の子育て様式が、「濃密家族」（我が子中心主義、家族関係重視で私的生活を重視し幸福志向が強い）の様相に。

14

ジェンダー類別としつけ意識

- もう一つ、「子ども中心主義」から、「親自身の自己実現の最大化」への意識変化は、メリトクラシー型の育児戦略（子の社会的成功志向）から個人的「選択」重視というペアレントクラシーへの転換とかつて筆者は述べた（天童 2004：p.146）。2000年代初頭には、そこにジェンダー化されたペアレントクラシー、すなわち親の選択と責務の重視がひそかな性別役割分業とかかわっていること（母役割の再強化）、また子どもの性別ごとの教育戦略のかかわり（階層による差異）も否定できなかった

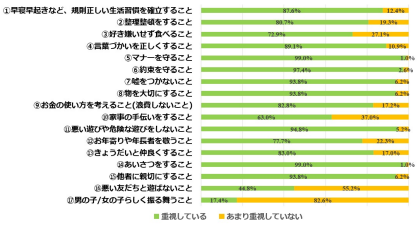
15

ジェンダー類別としつけ意識（2）

- **「子どものしつけで重視していること」**への回答は図の通りである。全体に、規則正しい生活習慣、食事、マナー、言葉遣い、あいさつといった基本的な生活習慣の重視、約束を守る、うそをつかない、物を大切にする、他者に親切にするといった倫理的規範の重視は明らかである。
- 回答が分かれたのは、「男の子らしく／女の子らしくふるまうこと」の項目で「あまり重視していない」が8割強を占めた。子どもの性別とのクロスでは、女の子をもつ親で「女の子らしくふるまうこと」を「重視している」割合が31％と高い。一方、男の子をもつ親では10％で、「男の子らしく」の規範は男児に対して弱い。

16

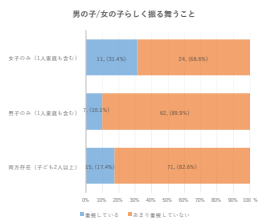
しつけで重視すること：生活習慣、マナー、他者との関係



17

女の子らしく／男の子らしく　弱いジェンダー類別 の時代？

- 2010年代の国際比較調査（牧野カツコほか）では、日本の子育てにおけるジェンダーカテゴリーの強さが指摘されていた。それに比して今回の調査では明示的なジェンダーカテゴリーは影を潜めたようにも見える。



18

6 文化資本の伝達と母親の就労

- 母親の就労形態別―読み聞かせをしているのはだれか
- 家庭教育の項目を、母親の就労形態別で見よう。
- 勉強や宿題をみる、通信教育の活用、絵本の読み聞かせの項目で、専業母親が「している」との割合顕著。

- 例「絵本の読み聞かせ」
  専業主婦＞フルタイム＞パートタイム
  「している」 54.8%　37.5%　28.6%
  母の就労形態と「しつけの担い手」
  ・片方のみ　パートタイム＞専業主婦＞フルタイム

19

母の就労と子育て：elaborated codeとペアレントクラシーの時代

母の就労形態別
フルタイムではしつけの担い手「夫婦で育児」66.7%
専業主婦で56.1%、＞パートタイム 38.1%

- 『都市環境と子育て』（2003　矢澤澄子ほか）で明らかとなったのは都市型家族の母の二重負担　空間的・精神的孤立
とくに子育て期に性別役割型（専業母親）であることを受け止めている母親よりも、二重基準型（自分は子育て＋パート化趣味、夫に仕事も子育ても期待する型）のほうに、不安や葛藤が顕著であった。
- 本調査（東京A区 2020）では、フルタイム就労の母親が比較的パートナーと育児の分かち合いをしているのに対して、パートタイムの母親に二重負担の様相。
- 家庭教育としつけ戦略の現在：より高度な精密・推敲コードが求められるとすれば、時間資源、人的資源の程度が子どものしつけ・教育を左右する、高度に洗練度を増したペアレントクラシーの時代へ

20

おわりに

- バーンスティンは、近代化のなかで家族の在り方は、地位家族から個人志向家族へ（Bernstein 1971）と変化し、子どもの社会化／統制は、見える教育方法から見えない教育方法（visible pedagogy／invisible pedagogy）へと移行したと述べた。
- 本報告でも示された、子ども本位、子どもの本性・個性にそった「個人志向の社会化」は、個人志向家族のしつけ、家庭教育の実態とも符合する。また、子ども本位、個人志向の社会化は、命令的・強制的しつけよりも、子どもの内面にアピールし、子どもの「自発性」を引き出す点で、アピール型のしつけ様式と親和的である。

21

「見えない統制」再考

- さらに、望ましい家族関係では、多くの親が、上下関係の弱い「なんでも話し合える家族」が志向していた。このような上下関係があいまいで、精密な（洗練度の高い）個人対個人のコミュニケーション過程において、子どもを統制（しつけ、教育）していくには、子どもの「自主的」な自己統制を促すことが必要となる。
- どう内側にアピールするか：elaborated codeの洗練化、高度化

☆ポイント　つまり、見えない統制は、統制がないことを意味するのではない。アピール型／コントロール型のしつけ戦略はともにかかわりながら、子どもの主体性を伸ばすとの文脈で、子どもの統制を行う逆説をはらんでいる。これが、潜在的・暗示的な「見えない統制」である。

22

謝辞

- 本報告の調査分析にあたっては、高橋均・北海道教育大学・教授、藤井竜哉さん（東北大学大学院博士後期課程）の助力を得た。記して感謝申し上げる。
- 本報告は科研費補助金19K02571（研究代表 新保・小林・敦子 早稲田大学）による共同研究成果の一部である。

23

主な文献

- Bernstein, Basil, 1971, *Class, Codes and Control, Vol.1, Theoretical Studies Towards a Sociology of Language*, Routledge & Kegan Paul.
- 牧野カツコ・渡辺秀樹・船橋惠子・中野洋恵編 2010『国際比較にみる世界の家族と子育て』ミネルヴァ書房.
- 瀬地山角 2012「台湾の女性労働・高齢者労働―日韓との比較を通じて」『交差する台湾社会』日本貿易振興機構アジア経済研究所，pp.66-100.
- 柴野昌山編 1989『しつけの社会学・社会化と社会統制』世界思想社.
- 天童睦子編 2004『育児戦略の社会学－育児雑誌の変容と再生産』世界思想社.
- 天童睦子・多賀太 2016「『家族と教育』の研究動向と課題―家庭教育・戦略・ペアレントクラシー」『家族社会学研究』No.28 (2), pp.224-233.
- 天童睦子編 2016『育児言説の社会学―家族・ジェンダー・再生産』世界思想社.
- Tendo, Mutsuko & Takahashi, Hitoshi, 2021, Family education and symbolic control in neoliberal conditions: Japanese childrearing media analysis, *International Journal of Educational Research*, 110, 101860.
- Van de Kaa, D., 1987, “Europe’s Second Demographic Transition”, *Population Bulletin*, Vol.42, No.1.
- 矢澤澄子・国広陽子・天童睦子 2003『都市環境と子育て―少子化・ジェンダー・シティズンシップ』勁草書房.

24

報告 3　　朱奕雷・李俐穎（早稲田大学大学院生）

Presentation3　Zhu Yilei & Li Liying　(Graduate Student, Waseda University)

「現代中国における家庭教育の世代間変容に関する考察」

Family Education in China: A Consideration of Generation Changes

当代中国家庭教育的代际变迁研究

現代中国における家庭教育の世代間変容に関する考察
―漢民族・朝鮮族を例として―

朱奕雷・李俐穎（早稲田大学大学院生）

国際WS@早稲田大学　2021年12月13日

1

はじめに

1949年から成立された中華人民共和国は、1950年から1979年までの**計画経済時代**と1980年代以降の**市場経済時代**を経過し、これまで70年以上の歩みの中で、激動な歴史時代を経験した。

計画経済時代の中国社会では、人口の流動が厳しく制限され、そして、社会主義的経済建設を行うために、人口増加政策が実施され、その時代の中国家族は、依然として伝統家族に近い大家族と特徴され、家族の変動も単純化していたと見られる。

その一方、1979年の改革開放政策が開始されて以降、人口の流動が比較的に容易になり、そして、一人っ子政策の実施は、中国の家族規模の急速な縮小化をもたらした。改革開放以降の中国では、家族問題がますます複雑化され、人口の国内外への移動や核家族化の進行など、現代の中国家族は、時代を変化するとともに、さまざまな面では、新たな変数を遂げたと考える。

現代中国の家族変動を考察する際、漢民族と55個の少数民族から構成する多民族国家である中国家族の全体像を把握することは極めて困難であるため、今回の発表では、中国で最も代表的な漢民族と朝鮮族の現代家族を例として、それぞれの家族変動の実態を論ずる。

今回の発表を通して、漢民族と朝鮮族の家族変動の実態から現代中国家族の変容を明らかにすることで、**現代中国家族変動、及び現代中国の家庭教育の変容**に新たな示唆を与え得ると主張する。

2

漢民族

現代中国における家庭教育の世代間変容に関する考察
―親子関係の変容に着目して―

朱奕雷（早稲田大学大学院）

3

目次

㈠ 研究背景と目的

㈡ 先行研究

㈢ 研究方法

㈣ 研究結果

㈤ 結論

4

研究背景と目的

5

研究背景

計画経済時代（1950～1979）

- 人口政策：人口増加政策　「人多力量大」
- 家族構成：両親と何人かの子どもから構成する大家族
- 子育て型：「満腹型」　「放任型」
- 親子関係：親本位主義

↓

市場経済時代（1980年代～）

- 人口政策：一人っ子政策
- 家族構成：両親と一人っ子から構成する
- 子育て型：「飽腹型」「知識技能型」
- 親子関係：子ども中心主義

6

研究目的

本研究の目的は、1949年の中華人民共和国(以下：新中国)が成立されて以来、急激な社会変動の中で、中国家族の育児行動はどのような変貌を遂げてきたのかを考察することである。そのため、親子二世代に向けて質的調査を行い、親子関係の世代間比較を通して、異なる歴史時代に位置していた中国家族は、いかに時代の変化に適応しながら自らの育児行動を変わってきたのかを明らかにすることを試みる。

本研究により、1950年代から1980年代以降の国家政策と社会転換は現代中国家族に与えた影響を親子関係の変容の視点から解明することで、現代中国の家庭教育研究に新たな示唆を与え得ると考える。

1950年代の中国家庭の親子
『小さな先生：母親に字を教える娘』
愈曩階　1950年代作品

(横平恵「一主二婦」,『文匯報』1991年12月6日)

7

先行研究

8

先行研究

楊春華「中国の『親子関係』に関する一考察――一人っ子家庭と非一人っ子家庭の地域別比較を中心に」で、一人っ子家族の親子関係の特徴を以下のように指摘した。①一人っ子家族の母子関係は非一人っ子家族より緊密である、②一人っ子は非一人っ子より友たちを求める傾向が強い、③一人っ子家族は非一人っ子家族より子どもの気持ちをより理解できるとの3点である。

郭楊『転換期を生きる中国都市家族の育児と女性たち』では、長春市とハルビン市の一人っ子家族の親子を対象として調査を行い、一人っ子家族の親子関係の特徴として、①子の世話を周到にみる親と、親の老後、介護が自分の責任と考える子、という頼りあい、助けあう親子関係、②親は子どもの気持ちを理解して尊重しようと意識を持っているが、依然として親(大人)に従うことを求めていることを指摘した。

先行研究の問題点

① 一人っ子家族に焦点して、世代間の比較が不十分

② 量的調査に集中していたが、質的調査から親子関係の変動の実態を考察することが不十分

9

研究方法

10

調査概要

調査方法：半構造化インタビュー

調査対象者の選定：親世代：1960年代生まれ　4人
子世代：1990年代生まれ　4人

調査時間：家族ごとに1時間程度

調査倫理：対象者の許可を得た上で録音
得られたデータは匿名で記録

分析方法：佐藤郁哉　『質的データ分析法：原理・方法・実践』を参照

11

調査対象者の属性

	世代	対象	出生年	出身地	兄弟数	学歴	職業
家族1	親	P1	1966	上海市	2	高卒	自営業
	子	C1	1988	蕪湖市	1	大専	会社員
家族2	親	P2	1962	蕪湖市	5	高卒	会社員
	子	C2	1991	蕪湖市	0	大卒	会社員
家族3	親	P3	1966	蕪湖市	3	中専	会社員
	子	C3	1991	蕪湖市	0	大卒	ジャーナリスト
家族4	親	P4	1965	チベット	2	大専	看護士
	子	C4	1994	蕪湖市	0	大卒	会社員

12

研究結果

13

① 1960年代生まれ親世代の家族の親子関係

【①　権威主義的な親子関係

4人の調査対象者全員は、親に対して、「畏怖の念を抱くこと（P4）」、「親に大きく声で話してはいけない(P1)」と、親に対する尊敬することがしつけの中で極めて重要視されたことが伺える。

私たちの時代では、親がいうことをきちんと聞くべきである。私の時代では、今のような子どもの気持ちをよく理解して、いっぱい話し合うといった平等的な親子関係ではなかった。子どもは親がいうことを必ず聞かなければならない。親がいうことを疑うことが許せない。だから私はいつも親の指示に従うからだ。(P3)

P3の話から見ると、1960年代生まれの家族では、親としての権威が極めて強調され、子ども親について、親の意見に従うべきであるという従順さが依然として家庭教育の中で重視されたと見て取れる。

14

① 1960年代生まれ親世代の家族の親子関係

【②　親密的な母子関係

今回の4人の調査対象者は、全員、**しつけの担い手は母親である**と述べた。また、P1、P2とP3の母は、子どもの日常生活から学業まで、全般的なケアを担当した。そして、P4の場合では、子どもの世話は母親が担っていたが、学校行事や学業などの面では、父親の関与がより多いと述べた。さらに、「子どものしつけ方に関して、対立や違いが生じた時に、誰の意見に従うのか」について、**「母親の意見に従う」**と今回の調査者全員が語った。

➢ **1960年代の家族には、しつけの担い手は母親である理由は？**

父親の仕事は非常に忙しかったので、あまり私たちのことを考える余裕がなかった(P2)

父は仕事に忙しかったので、あまり子どもたちのしつけを干渉してくれなかった(P4)

⇩

「女は内、男は外」という伝統中国の性別役割分業規範

15

② 1990年代生まれ子世代の家族の親子関係

【①　平等型の親子関係

親に対する態度：

「親の言うことをちゃんと聞く」(C1, C2, C3, C4)

⇨ 子どもの従順さを求める、上の世代からの伝承

「大事なことについて、自分で決めたか？親と相談して決めたか？それとも親の意見に従ったのか？」

「自分の将来のキャリアや人生について、親と相談しながら決める」(C2、C3、C4)

「結婚相手と職業のことについて、自分で決めた(C1)」

⇨ 自己主張が強くなる子世代、子どもは親にひたすら従順ではなく、子どもと積極的な対話の中で子どもを教育する

16

② 1990年代生まれ子世代の家族の親子関係

【②　学業重視で厳格的な親子関係

① しつけ方の世代間比較

項目＼世代	1960年代生まれの親世代				1990世代生まれの子世代			
	P1	P2	P3	P4	C1	C2	C3	C4
叱られたことが多い			○		○	○	○	○
褒められた場合が多い	○	○		○				

⇨ **親世代と比べ、子世代は叱られた教育を受けた場合が多い**

17

② 1990年代生まれ子世代の家族の親子関係

【②　学業重視で厳格的な親子関係

② 叱り方の世代間比較：

項目＼世代	1960年代生まれの親世代				1990世代生まれの子世代			
	P1	P2	P3	P4	C1	C2	C3	C4
ひとこと注意するだけ	○	○	○	○	○	○	○	○
大きな声で怒鳴られた	○	○	○		○	○	○	
静かに言って聞かせる		○				○		○
軽くたたく						○	○	
体罰を加える					○	○	○	
たびたび口うるさく言う		○	○			○	○	○

⇨ **親世代と比べ、子世代は、「一言注意するだけ」から、「体罰を加える」まで、比較的に厳しくしつけられた**

18

② 1990年代生まれ子世代の家族の親子関係

(2) 学業重視で厳格的な親子関係

③ 「よくどんなことで叱られたか？」項目の世代間比較：

項目＼世代	1960年代生まれの親世代				1990世代生まれの子世代			
	P1	P2	P3	P4	C1	C2	C3	C4
親の期待に達していない			○					
学校でいい成績が取れなかった	○			○	○	○	○	○
学習の調子が悪かった時						○	○	○
マナーや礼儀作法が悪かった				○				
家の手伝いがよくやらなかった時		○						

⇨ **親世代では、叱られた理由は幅広く見られたが、子世代の場合では、学習のことだけに集中していた。**

19

② 1990年代生まれ子世代の家族の親子関係

(2) 学業重視で厳格的な親子関係

叱られた場合が多い。何事でもよくできなかった場合は叱られた。しかし、いいことをやった時や学校でいい成績をとれたとしても、あまり褒められなかった。私の時代では、みんなはそのように育てられたかと思う。（C2）

叱られた場合が多い。また、よく他の子どもと比較しながら叱られた。他の子供は私より優秀であれば、私が叱られた。(C3)

⇨ 叱る教育

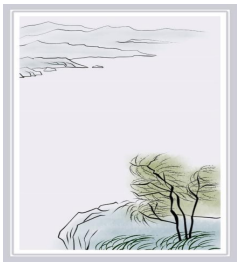
原因は？

1980年代から学歴社会の進行

学力競争の激化

⇨ 激しい競争の中で勝利を収めるように

20



結論

21

結論：権威から平等、寛容から厳格—現代中国家族の親子関係の変容

1960年代生まれ親世代：権威主義的な親子関係

国家主義の傾向が強く計画経済時代
⇩
民族の子、家族の子
（独立な個人としての存在ではない）
⇩
家族秩序の維持のため、権威主義的な親子関係

⇩

1990年代生まれの子世代：平等型の親子関係

改革開放以降の個人の自由への提唱
⇩
独立した個人としての子ども
⇩
親子関係の平等化への移行

22

結論：権威から平等、寛容から厳格—現代中国家族の親子関係の変容

1960年代生まれの親世代：寛容型の親子関係

⇩

1990年代生まれの子世代：厳格型の親子関係

学歴社会の進行
一人っ子政策の実施
⇩
学力競争の中で成功を収めるように
子どもが大切に扱われるようになった

23

参考文献

➢佐藤郁哉,『質的データ分析法：原理・方法・実践』, 新曜社, 2008年。

➢鄭楊,『転換期を生きる中国都市家族の育児と女性たち』大阪公立大学共同出版会, 2019年。

➢楊春華,「中国の『親子関係』に関する一考察——一人っ子家庭と非一人っ子家庭の地域別比較を中心に」,『家庭教育研究所紀要』, 小平記念日立教育振興財団日立家庭教育研究所, 2000(22), 5-17頁。

24

朝鮮族

中国朝鮮族の韓国への出稼ぎ移動からみる家庭教育の変容
―二世代の比較を通して―

李俐穎（早稲田大学大学院）

25

目次

一 問題提起
二 先行研究・研究目的
三 研究手法・対象
四 研究結果
五 総合考察

26

問題提起

27

問題提起

中国朝鮮族の出稼ぎ移動

・国内移動（1978年の改革開放政策）＋海外移動（1992年の中韓の国交樹立）➡

・韓国への移動：言語の意思疎通＋賃金格差＋韓国政府の受け入れ政策

大量的な移動による影響

・農村の過剰労働力の就職難問題の解決
・朝鮮族地域の経済発展の促進
・家庭の経済収入の増加
・朝鮮族自身の素質水準の向上

・移動先での長期滞在
・家族構造の変化
・残された家族への影響が極めて大きくなっている

28

先行研究・研究目的

29

先行研究

韓国に移動した朝鮮族に関する研究

マクロ

①朝鮮族の韓国への移動背景
→李雪蓮・朴紅・坂下明彦（2018）「韓国における労働力不足問題と外国人労働力の受入政策の展開―中国朝鮮族出稼ぎ労働者の就業を中心に―」
②朝鮮族労働者の法的地位
→蔡漢泰（2005）「中国同胞勤労者の法的地位に関する考察」

ミクロ

①朝鮮族労働者の生活実態
→金明姫・浅野真一（2012）「韓国における中国朝鮮族の生活と社会意識」
→蔡春花（2012）「訪問就業制による朝鮮族の出国労働の変化」
②朝鮮族の韓国での定住意識と朝鮮族コミュニティ
→李勤松（2006）「国境を越える中国朝鮮族の移動と朝鮮族コミュニティーの再構築―ソウル・東京における朝鮮族移動者を中心に―」
→丙東根（2006）「共生を構築する主体としての朝鮮族―在韓朝鮮族の現実と展望―」

30

先行研究

家族変容と子どもの教育

家族変容：グォン（2005）「残された子女」・朴光星（2008）「欠損家庭の子女」

①グォン『中国朝鮮族社会の変化―1990年以降を中心に』 中国黒竜江省の村での調査
・移動者と残された家族間のやむをえない長期間の離散→家族間の絆が損なわれ、結果的に夫婦間、親子間の家族分散は家族間の解体につながる傾向があると憂慮を示している。
・家族間の再結合においても事実上、未来が不透明なまま長期間離れて過ごしていることは、朝鮮族自身の家族と婚姻に対する価値観への変化なしでは困難だと指摘した。

②朴『世界時代中国朝鮮族の超国家的に移動と社会変化』
・朝鮮族の家族は安定した伝統的な家族像から移動による家族分散を経験している
・未成年の子どもとの分離は子育てに対する親の価値観の変化によって、親子の関係も共に暮すよりは、経済的な論理がより重要視されるようになった。
・核家族は危機に置かれているが、先に韓国に移動した家族・親戚を通じて、現地で親戚関係が復縁し、相互的に協力し、それによって「家族共同体」が再結成される。

⬇

未来の家族の変化
家族は一緒に生活しなければならない→必要に応じて離れて生活することもある

31

先行研究

家族変容と子どもの教育

子どもの教育：2000年半ばからの延辺州の新聞やニュースの記事

残された子どもたちの問題の受け皿である中国の地方自治体が問題解決にむけての調査（2004）
➡単親・無親家庭子女・欠損家庭の子女問題

留守児童（学界）：朴（2012）・尹（2010）

①朴『中国朝鮮族教育の歴史と現実』
延吉市と琿春市の小学校2校への調査
・朝鮮族の移動がもたらした正の面と負の面
・朝鮮族社会が直面している留守児童の教育問題
・朝鮮族の留守児童が「特殊なグループ」から「主流のグループ」へ転換し、子どもの成長を妨げ、朝鮮族共同体の発展に悪影響を与える恐れがある

②尹「中国における海外出稼ぎにともなう留守子女の問題-延辺朝鮮族自治州を中心に―」
延辺での教育関係者や政府の関係者、保護者、留守子女への聞き取り調査
・延辺州の留守児童の現状と行政側の対応策

32

研究目的

留守児童の存在とその現状を明らかにしたにもかかわらず、それを理解するための、留守児童の発生背景と要因、子どもたちをめぐる教育環境の変化など全般的な現象については十分に説明されるとはいえない。
さらに、当事者である子どもたちはどういう生活を送っているか、出稼ぎに行った親たちはどのような教育戦略を持ち、親子分離の危機を乗り越えようとしているか、などについても十分解釈されていない。

⬇

本研究は韓国へ移動した朝鮮族と彼らの子どもたちといった二世代に焦点を当て、世代間の比較を通して、朝鮮族の家庭教育の実態を考察することを課題として設定する。

33

研究手法・対象

34

研究手法

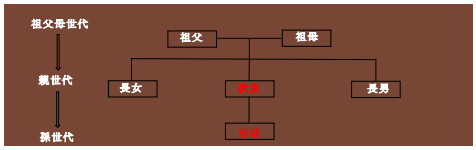
①文献調査
移動・出稼ぎに関する諸条件

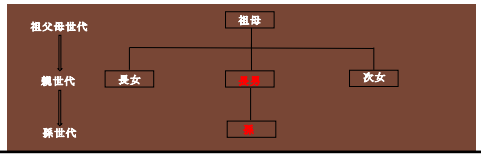
②半構造化インタビュー
・親から受けた教育、韓国への移動事情、自分の子どもへの教育
・二つの朝鮮族家庭（それぞれの家庭の親世代・孫世代）合計4名

35

研究対象―朝鮮族家庭1・2

家庭1





家庭2

36

研究対象者

家庭1								
世代	性別	年齢	出身地	現住地	兄弟数	学校経歴	最終学歴	職業
親世代(P1)	女	47(1974)	吉林省琿春市(都市出身)	韓国ソウル	3	朝鮮族学校	高卒	会社員
孫世代(K)	女	23(1999)	黒竜江省牡丹江市市内	北京市	1	漢民族学校	大学院在学中	学生
家庭2								
親世代(P2)	男	52(1968)	黒竜江省牡丹江市(農村出身)	韓国ソウル	3	朝鮮族学校	中卒	建築工事
孫世代(P3)	男	24(1996)	黒竜江省牡丹江市市内	韓国ソウル	1	漢民族学校	大学中退	会社員

37

研究結果

親世代・孫世代

38

教育戦略としての家庭教育

	親世代	孫世代
1	学校選択：朝鮮族学校 ・出身地域では朝鮮族学校が多い ・祖父母世代の民族伝承意識	学校選択：漢民族学校 ・農村地域の朝鮮族学校の閉鎖 ・子どもの将来の社会進出
2	学業重視・高学歴期待	学業重視・高学歴期待・全面的結果

受験競争の激化や拝金主義的・個人主義的教育観の広がり
「応試教育（受験教育）」→「素質教育」

39

しつけとしての家庭教育ー孫世代

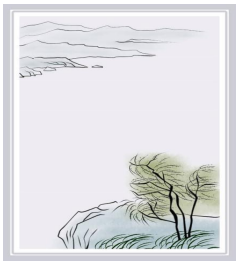
	親世代	孫世代
1	家族形態：祖父母・父母・兄弟姉妹 親子関係：上下関係が厳しい 兄弟姉妹関係：上下関係が厳しい	家族形態：親の韓国への出稼ぎ（低学年）➡祖父母・一人っ子 親子関係：（平等的・親の不在による親子の交流不足）
2	しつけの担当者：父母　主要担当者：母親 しつけの重点：礼儀作法・労働教育	しつけの担当者：祖父母　主要担当者：祖母 しつけの重点：礼儀作法・生活面

40

しつけとしての家庭教育ー孫世代

	親世代	孫世代
3	子どもとのやりとり 通信手段(パソコン・携帯電話)＋帰国＋子どもの韓国での再会	
4	家庭内での民族文化伝承 主要担当者：祖母・母親 内容：知識教育(言語・歴史など)＋伝統的文化(飲食・行事など)	家庭内での民族文化伝承 主要担当者：祖母 内容：民族言語(聞き取れる程度くらい)＋民族的ライフスタイル

41



総合考察

42

総合考察

1 二世代の共通点

・家庭教育における女性役割
・学業重視

2 二世代の相違点

・家族規模の縮小化：三世代家族➡核家族　多子家庭➡一人っ子家庭
・教育担当者：父母➡(親の不在)祖父母世代による隔世教育
・民族文化教育の変容：習得場所・内容の減少傾向

43

参考文献

➢李　雲澤・朴　紅・坂下　明彦(2018)「韓国における労働力不足問題と外国人労働力の受入政策の展開―中国朝鮮族出稼ぎ労働者の就業を中心に―」『麗経論叢』47、pp. 55-66
➢蔡　漢泰(2005)「中国同胞勤労者の法的地位に関する考察」『中央法学』7(1)、pp. 77-99
➢金　明姫・浅野　真一(2012)「韓国における中国朝鮮族の生活と社会意識」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』6(1)、pp. 53-62
➢蔡　春花(2012)「訪問就業制による朝鮮族の出国労働の変化 」『人間社会学研究集録』7、pp. 121-143
➢李　勁松(2006)「国境を越える中国朝鮮族の移動と朝鮮族コミュニティーの再構築―ソウル・東京における朝鮮族移動者を中心に―」富士ゼロックス小林節太郎記念基金2006年度研究助成論文
➢芦　東勝(2006)「共生を構築する主体としての朝鮮族―在韓朝鮮族の現実と展望―」中国朝鮮族研究会編『朝鮮族のグローバルな移動と国際ネットワーク』アジア経済文化研究所、pp. 252-266
➢グォン・テファン(2005)『中国朝鮮族社会の変化―1990年以降を中心に』ソウル大学出版社
➢朴　光星(2008)『世界時代中国朝鮮族の超国家的に移動と社会変化』韓国学術情報
➢朴　今海(2012)「朝鮮族の国を跨る人口移動と留守児童の教育問題」『社会転型と民族発展』延辺大学出版社、pp. 122－139
➢尹　秀一(2010)「中国における海外出稼ぎにともなう留守子女の問題-延辺朝鮮族自治州を中心に―」『創価大学別科紀要』20、pp. 15-31

44

おわりに

家庭の在り方は、家庭をとりまく社会文化的条件に大きく規定されていると考えられる。今回の研究を通して、計画経済時代及び市場経済時代といった二世代の漢民族と朝鮮族の家族変動の実態から現代中国家族の変容を明らかにすることにより、現代中国家族変動、及び現代中国の家庭教育の変容に新たな示唆を与えることができた。

漢民族であっても、朝鮮族であっても、それぞれの家庭教育は中国伝統的な教育方式が依然として根付いている一方、中国社会の急速な発展や自民族社会の変化により家庭教育の新たな展開が見られる。

都市化と産業化の進展により、人々を取り巻く周辺の環境も背景も変わっていき、家庭環境にも更なる影響を与えられる。今後も中国の家庭教育について継続的に検証していくことは必要であると考える。

45

ご静聴ありがとうございました！

46

ゲスト報告　　李恩珠　先生（韓国、明知短期大学客員教授）

Special presentation Guest speaker　(LEE Eunju ,Visiting Professor, Myeongji University)

「韓国における家庭教育と文化の伝達－祖母・母・娘世代の比較研究」

Family Education and Cultural Transmission in Korea: Three Generations Comparative Research

韩国的家庭教育与文化传播：外婆、母亲、女儿三代间的比较研究

東アジア地域における家庭教育と規範的文化の伝達の諸相
—各地域のケーススタディをふまえて—韓国

韓国における家庭教育と文化の伝達
—祖母・母・娘世代の比較研究—

韓国・明知専門大学　青少年福祉学科　客員教授・早稲田大学博士

1

本報告の流れ

- はじめに：韓国における家庭教育とは
  = ①学校の宿題　②家庭内の役割
- 調査結果
  1. 三世代の分類の基準
  2. 調査結果
  3. インタビューの内容
  4. 日本との比較(感想)
- おわりに

2

はじめに

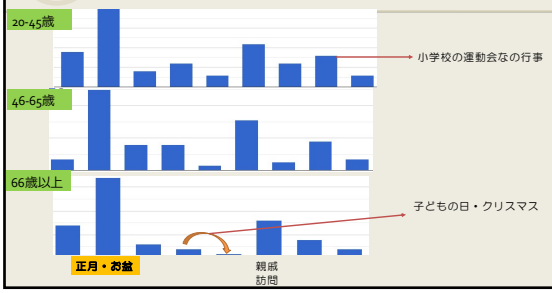
- 韓国における‘文化の伝達’とは？
  ①植民地時代及び戦争（現代には徴兵制）から女性が家長の役割
  ：‘強い韓国女性’は、文化的な‘遺伝’とも言える
  ②儒教思想: 忠孝・男女有別：大家族が集まる家庭教育
  →正月・仲秋節（お盆）の支度　→　それ以外は‘委託’(塾か宗教へ)

  ➡ 息子は祭祀で拝み方・長男は祭祀の次ぐ手として祖父から学ぶ
  娘は台所でお使いの待機（一部では縁起でもないからと）

  → 学歴から身分上昇しなさい/　裕福な‘次男’と結婚しなさい

3

問８．家庭での年中行事の中で大事された行事は（図1）



4

韓国におけるお正月の風景
本・映画‘８２年生まれのキムジヨン’
：韓国における三代の女性の典型的な生き方を照明し女性らに共感を受ける

＊画像(約1分40秒)　https://www.youtube.com/watch?v=Yopcqo3TfzY

5

調査結果ー調査方法

一次ベイビーブーマー：1955-1963年生まれ
二次ベイビーブーマー：1968-1974年生まれ

区　分	調査方法	調査対象
1次 設問調査	2021年4月1日～2021年6月5日まで全国において多様な階層・地域に分け、3世代にオンライン調査を行う	20から45歳（21名） 46から65歳（54名） ：ベイビーブーマー 66歳以上（18名）
2次 インタビュー調査	１次調査の内容に基づき、3代組の答えができる方の協力をうけ、電話のインタビュー調査。90代以上の場合は親世代に聞き取り調査の協力をうける	地域別に分けて20代～90代まで

6

3世代の分類の基準

区　　分	歴史的な背景	
孫世代：20-45歳（21名）	MZ世代、IMFベイビー世代	過保護世代
親世代：46-65歳（54名）	IMF世代、ベイビーブーマー（一次・二次） 民主化運動世代（50～65歳までの男性）	自立世代（主に女性）
祖父母世代：66以上(8名)/75歳以上（10名）	戦争/植民地時代世代	生計の労働者

* MZ世代：ミレニアム・ディジタル世代
* IMF世代：1990年代末韓国社会における経済危機に直面した世代、その子どもを'IMFベイビー世代'という。
経済的な困窮により家族解体、離婚、失業などの問題により格差社会が始まった時期。

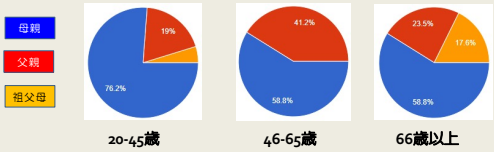
7

調査結果

- 1.家庭教育：しつけ＝生計や生存
- 2.学歴主義＝能力主義
- 3.家庭教育＝学校の宿題・週末の宗教活動・お正月など
- 4.日本との比較ー感想

8

問１＞しつけの担い手はだれでしたか（図2）



9

調査の分析
1.家庭教育：しつけ＝生計や生存

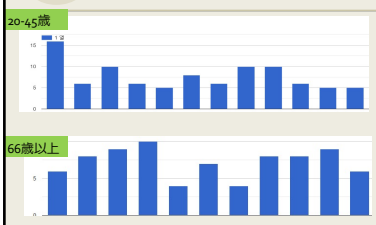
- **問2-3＞　中学・高校時代、家庭のしつけで、大事にされていたこと（図3）**
- 20～45歳までの調査対象（複数）

  勉強(16名)＞親に対する態度（10名）＞悪い友だちと遊ばない(10名)＞
  兄弟・姉妹に対する態度及び面倒など(5名)

- 70代以上は、'いつ夫が戦場か徴兵に引っ張られていくか分からない'
  → '息子を生む' '長男を出世させる'など旦那代わりとしての長男への執着
  例えば、78際の女性は、'7歳の時に父親が共産主義者だと銃殺された、その後,母は、長男の兄をかばい、父親のようにうやまった'と証言

10

図3. 中学・高校時代、家庭のしつけで、大事にされていたこと(複数)



勉強＞親への態度＞
悪い友たちと遊ばない＞
家事及び面倒の順

兄弟への態度＞
親への態度＞
女らしく行動＞
家事・労働の順

11

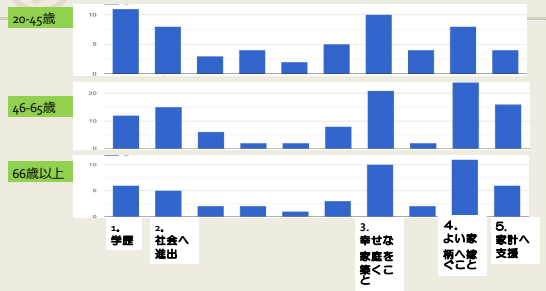
調査の分析
2. 学歴主義＝能力主義

- 問11-1＞**'進路についての期待（複数選択）'（図３）**
  → ３世代において類似したグラフ結果

  1. 学歴：20-45歳に高くなる
  2. 社会へ進出
  3. 幸せな家庭を築くこと
  4. よい家柄へ嫁ぐこと
  5. 早く社会に進出して家計を助けること―45歳以降に高くなる

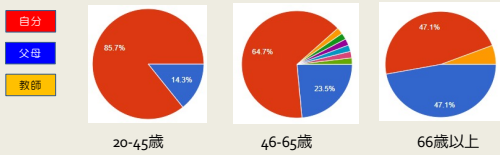
12

図３　‘進路についての期待（複数選択）’



13

間11－2>　進路選択について、親御さんやほかのだれかに相談しましたか。



14

分析内容

- 戦争及び植民地時代を経験した祖母世代：農業・家事の主体としての労働者
- 親世代：兄弟の学費の支援/子どもの成功のために犠牲
- 娘世代：成功のため競争する(20-30代)
  21名の中で16名(76.2%)が家庭教育を母親から受けたと応答
  その中で、母親の管理下で学歴やしつけを受けたと応答(教育へ投資)
  特にに中産層以上が、母親からの結婚相手への条件が専門職か自分よりよい家柄として強要
  → 親の夢変わり　→教育（競争・受験）重視
  → ‘騙されるな学歴・よく見よう履歴’（企業の人事課の流行り言葉）

➡ 社会問題：男女葛藤/少子化/引きこもりの増加（生きる力の不在）

15

３．家庭教育＝宗教活動

- 韓国の場合、キリスト教及びカトリック教、仏教など宗教を中心とした女性コミュニティの活動がとても活発、家族ぐるみの週末の集まりなどが家庭教育の延長

- 娘世代：青年部：神様・仏様のお言葉を聞く
- 親世代：茶道会など－入試への情報及びビジネス関係など
- 祖母世代：ランチなどの食事会、人間関係など

➡ 三代が一緒にできる集まりの不在/ ‘預ける教育’
→ 親関係問題の続出

16

４．三代へのインタビュー(二組)

地域	年齢	職業	学歴	経済状況	家庭教育への意見
1. ソウル 3男3女 母親 3女2男 一人っ子	93歳	無職	高卒	超上流層	弟の面倒を見る、勉強する、嫁いで家計をうまく運営する、レベルの合う家柄へ嫁ぐ、賢母良妻、親孝行、幸せな家庭を築く、家訓を従う、お使いをちゃんとする、兄に従う、出世する
	63歳	教授	博士卒	超上流層	レベルの合う家柄へ嫁ぐ、 祖父からしつけを学ぶ、皆教授に慣れ、小学校から高校まで学校の行事に親が積極的に支援する、 週末にはカトリック教会に必ず通う、名門中・高に入る、同窓会に必ず参加する、結婚しても活躍する、離婚はいけない、予備新婦の教育を受ける、 平等に育てられたと思ったけど今頃母親が弟に援助してきたことが分かった
	35歳	フリー 非婚	修士卒		留学する、結婚は自由、祖父母への尊敬や家族の行事に参加する、自由に生きる、カトリック教を信する、母の無関心、経済的な余裕
7. 金融業 3男2女 京畿道 3女1男	81歳	商業	無学	下流層	家族を大切にする、家事・兄弟の面倒や食事担当、いい男と結婚する、家族の絆を大切にする、家族の行事に必ず参加する、男を尊重する
	50歳	パート	高卒	下流層	母から商業高に入り早く金を稼いで長男の大学進学に協力しろと言われる、高卒後工場で働いて兄の学費を援助したが、兄は60歳を超えても自立できていない、親が甘やかしたせいである
畑大	22歳	フリーター	短大		早く社会に進出し金を稼ぐ、いい男に結婚しろ、忙しい親の不在で弟の面倒担当だった、勉強や読書などできない環境だった、どこかに逃げたいが仕方がない、親孝行したいがそれもできない

17

その他のインタビューの内容

区分	内容
孫世代：20-45歳（21名）	これだけ勉強しても結局母のように主婦になると思う 小学校から大卒まで首席はほとんど女性、頑張れば女性も出世できる時代だと言われたが、就職からは差別され、教師か公務員になるしかない。小学校の時にはいい友達と遊べ、中高校の時には社会的にも親からも勉強ばかり強調されてきた。母親の干渉や期待に沿えないと思う、親より身分上昇するできない時代、家族を大事にするよう言われた。いい男と結婚しろ、金を稼いで結婚の準備をしろ、女は旦那しだいだ、金持ちになれ。
親世代：45-65歳（54名）	男女差別から弟の面倒、学費支援をしてきたが、今まで実家は私にとって荷物のような存在。女は学ぶと生意気になると言われた、女らしく、家事の担当をした。子どもや旦那に犠牲するように言われたが親の面倒まで強いられる世代だ。韓国の女性は朝鮮時代からあまり変わっていない。それは結婚後実感した、旦那は平等で家事も助けてくれるが、家族行事の時に姑の女性差別に慣りを感じる。娘は非婚でいいと思う
祖父母世代：66以上(8名) 75歳以上（16名）	畑の仕事をし、8歳から家事をすべて担当していた、今考えれば人間だったのか思う。母親は舅にいつも抑圧されて子どもを愛することも表現できななかったと思う。生まれたことをいつも悔んでい。教育という意味があったろうか、ひたすら仕事だった、舅は息子を期待したのに私が生まれていつも母と私は罪人だった。ご飯すら食べれば十分だった、逃げるように結婚した、その後も苦労ばかりだった。生まれ変わったら思いっきり勉強して偉くなりたい。男に襲われると大変だから髪の毛も歯も洗わない

18

5．日本との比較・感想

- 人の負けるな（競争）
- 金持ちになりなさい（拝金主義）
- しつけ(生きる力・食育など)より勉強（学歴主義）
- 中身より外見重視（哲学の不在）
- '皆'より'自己'中心（読書率の最下位）

今後の展望

少子化への対策：
　教育改革・女性への勤務環境の改善・生涯教育への支援強化など
国際情勢変化：K文化ブーム・IT強国・朝鮮半島の情勢変化の可能性
　→青年創業の増加（職業の多様化）、女性の意識・ライフスタイルの変化
　➡ '生きる力' への教育

19

おわりに

ご清聴をありがとうございます！

20